

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第73号	氏名	西 義人
学位審査委員	主査 平山 壽哉 副査 関根 一郎 副査 江口 勝美		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、慢性胃炎や消化性潰瘍の主たる原因とされているヘリコバクター・ピロリの胃粘膜障害の仕組みについて、近年免疫や胃酸分泌に関わることが示唆されている摂食調節ホルモン、レプチンの関与を調べようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 長崎大学医学部・歯学部附属病院倫理委員会の許可のもと、ヘリコバクター・ピロリ感染者、非感染者の血中及び胃組織におけるレプチンの発現量を免疫染色法や mRNA の定量を行い調べている。さらにレプチンが関係する炎症性サイトカインの動向を mRNA 発現量の変化を調べて解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、血中レプチン濃度は、BMI と相関するもののヘリコバクター・ピロリ感染者、非感染者には変化は認められなかった。しかし、感染者に於いて胃底腺下部におけるレプチンの発現量に顕著な増加がみられたこと、胃レプチン量は胃粘膜 IL-6 及び IL-1βの濃度と相関していたことから、レプチンが感染時にこれらの炎症性サイトカインを介して炎症に関わっていることが示された。今後の胃粘膜障害機序の解明に大いに寄与することが期待される。</p> <p>以上のように本論文は、ヘリコバクター・ピロリの胃粘膜障害機序についての研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			